

町内駅伝大会

馬場逆転、14年ぶりV

〈競技結果〉

総合成績 ※オープン除く

- ①馬場 59分44秒
- ②瀬戸口・辻A 1時間02分49秒
- ③田上A 1時間02分57秒
- ④野中田3 1時間05分04秒
- ⑤上里1・2 1時間07分03秒
- ⑥野中田1 1時間13分41秒

区間賞

- ▽1区(2.1キ、高校生以外)
 - 福屋渉(瀬戸口・辻A) 6分36秒
- ▽2区(0.6キ、女子)
 - 深水帆乃華(瀬戸口・辻A) 1分55秒
- ▽3区(1.4キ、フリー)
 - 渋谷優斗(瀬戸口・辻A) 4分32秒
- ▽4区(1.8キ、小学生)
 - 植木陽菜乃(馬場) 7分20秒
- ▽5区(0.9キ、50歳以上)
 - 稲葉賢一(田上A) 3分44秒
- ▽6区(2.0キ、学生以外)
 - 福屋博樹(瀬戸口・辻) 6分58秒
- ▽7区(1.8キ、30歳以上)
 - 植木圭一郎(馬場) 7分17秒
- ▽8区(1.5キ、フリー)
 - 財部薫(野中田3) 5分02秒
- ▽9区(1.4キ、40歳以上)
 - 古賀宏(田上A) 6分07秒
- ▽10区(2.2キ、学生以外)
 - 多田恵太(馬場) 6分58秒

躍進賞

馬場 ※前回3位から1位

特別賞

田上、瀬戸口・辻 ※2チーム出場

タイム的確賞

瀬戸口・辻B タイム差1秒
申告1時間06分05秒→当日1時間06分04秒

ファミリー賞

- 【田上】中田翔・有咲・大智、稲葉賢一・勇哉・翔太、大山重範・将矢・亮仁
- 【瀬戸口・辻】福屋博樹・昌代・渉、岩野浩平・陽太・寧々・新、深水大樹・悠里・帆乃華・夢華
- 【上里1・2】井上聖・旭・らら



コース変更以降、最速タイムで優勝した馬場

第47回湯前町内駅伝大会は12月2日に湯前中学校グラウンドを発着点とする10区間(15・7キ)の周回コースで開かれ、8地区9チーム(オープン2組)が出場。馬場が総合タイム59分44秒のタイムで優勝しました。

レースは1区から瀬戸口・辻Aが首位をキープし、馬場が2位で追いかける展開。馬場は先頭との差を徐々に縮め、8区で逆転。最大1分47秒差をはねのけ、2位に3分5秒差をつけてフィニッシュしました。

馬場の優勝は第33回以来、

14年ぶり。タイムは12区間から10区間へ変更した第32回大会以降で最速。前回3位から1位となり、躍進賞も受賞しました。

2チーム出場した田上と瀬戸口・辻には特別賞が贈られ、申告タイムと当日のタイムが1秒差の瀬戸口・辻Bはタイム的確賞、3人以上出場した7家族はファミリー賞を受賞しました。沿道ではたくさんの方々が選手を応援。レースには球磨一周駅伝メンバーも2チーム出場し、汗を流しました。

大臣賞を受賞しました。都道府県知事から推薦された優良な林業経営体から特に優れている個人や企業を表彰するもので、秋篠宮文仁殿下が総裁を務める(公社)大日本山林会が主催。全国の8団体・個人が農林水産大臣賞を受賞し、同社は県内で唯一表彰されました。

間伐材の搬出業を皮切りに、素材の生産、製材、造林などを展開する同社は約1100ヘクタールの森林を管理。2年前に球磨スギの大経材を活用するための乾燥法や製材方法がウッドデザインを受賞するなど高い評価を受けています。

今回は、①地域の森林整備で重要な役割を果たしている②関西の建材商社などとのネットワークを作り、地域の課題となっている大きな丸太の活用に取り組んでいることが評価されました。

表彰式は昨年11月に東京都で開かれ、同12月に湯菜里で開かれた受賞祝賀会には、関係者130人が出席しました。

JTの森ゆのまえ3期目へ 新たに212ヘクタールの森林を整備



3期目の調印を喜ぶ3人(左から:鶴田町長、寺島社長、蒲島知事)

「JTの森ゆのまえ」として、平成21年から森づくりを進める本町と日本たばこ産業株式会社(JT)が10月22日に、熊本県庁知事応接室で、取り組みを5年間延長する協定を結びました。

本町は熊本県が平成20年に策定した「企業・法人等との協働の森づくり指針」を活用して、県内で初めて協定を結び、1期5年で活動。木の成長を促進させるために、込み合った枝や木を間引いたり、植林をしたりして10年間で町有林延べ300ヘクタールを整備しました。毎年、春と秋には社員と地元住民が交流。JT社員の研修受け入れや本町の若手職員がJTで研修するなど、新しい交流も生まれています。

3期目の協定では、同社が来年度4月から5年間で森林整備の資金として約1900万円を支援。「多様な生き物と共生できる豊かな森づくり」をテーマに、牧良地区の町有林212ヘクタールを間伐や下刈りなどを行います。

調印式は県庁知事応接室で

開かれ、蒲島都夫県知事は県の森林整備の推進に大きく貢献したとして、同社の寺島正道代表取締役社長に表彰状を授与。鶴田正巳町長、寺島社長、蒲島知事の3人が協定書に署名しました。

鶴田町長は「地域にとって林業は大きな産業の柱。平成21年に協定を結ばせていただいたから、手入れが遅れていた森林整備が急速に進んでいる。3期目を結び、さらに森林整備を進めることができ、うれしく思っている」、寺島社長は「交流は従業員にとって、自然環境への理解を深め、地域と交流するきっかけがない機会。3期目も町の皆さんと力を合わせて森づくりに取り組んでいきたい」、蒲島知事は「県にとっても森林整備を進めていくことは重要。今後、整備が進み、企業と地域の交流を深めることで豊かな森づくりや生き生きとした地域づくりにつながることを期待している」とあいさつしました。

九州横井林業が農林水産大臣賞 地域に根ざした経営を評価

平成30年度全国森林推奨行事の審査結果がこのほど公表され、九州横井林業株式会社(那須主隆代表取締役)が最高ランクの「農林水産



関係者へお礼を伝える那須代表